

が 5.5%(あると答えた者のうち 25.5%),三番目が「淋病」で 4.6%(あると答えた者のうち 20.8%),四番目が「クラミジア」と「HIV 感染症」でそれぞれ 1.8%(あると答えた者のうち 8.3%),六番目が「A 型肝炎」「性器ヘルペス」「A 型肝炎」「B 型肝炎」でそれぞれ 0.9%(あると答えた者のうち 4.2%)であった。

HIV 抗体検査の希望受検頻度では、「年に 1 回」と答えた者が最も多く 74.3%,次いで年に 2 回」と答えた者が 17.4%であった。

セックスについては、「過去 6 ヶ月間における女性とのセックスの有無」について、「ない」と答えた者が 96.3%,次いで「ある」と答えた者が 3.7%であった。「過去 6 ヶ月間における男性とのセックスの有無」については、「ある」と答えた者が 92.7%,「ない」と答えた者が 7.3%であった。「過去 6 ヶ月間における男性とのセックスの回数」については 1 回と答えた者が最も多く「ある」と答えた者のうち 41.6%,次いで 2 回と答えた者が 12.9%であった。

本研究において開発したコンドームに限らず,コンドーム一般の当事者の使用状況については,過去 6 ヶ月において特定の相手とタチでセックスする場合,「必ず使った」が有効研究協力者全体の 32.1%で最も多く,次いで「セックスしなかった」が有効研究協力者全体のうち 29.4%,「使わなかった」が有効研究協力者全体の 11.0%で三番目であった。過去 6 ヶ月において特定の相手とウケでセックスする場合,「セックスしなかった」が有効研究協力者全体のうち 45.9%で最も高く,次いで「必ず使った」が有効研究協力者全体の 23.9%であった。過去 6 ヶ月において不特定の相手とタチでセックスする場合,「セックスしなかった」が有効研究協力者全体のうち 45.0%で最も高く,次いで「必ず使った」が有効研究協力者全体の 29.4%,「使うことが多かった」が有効研究協力者全体の 6.4%で三番目であった。過去 6 ヶ月において不特定の相手とウケでセックスする場合,「セックスしなかった」が有効研究協力者全体のうち 56.9%で最も高く,次いで「必ず使った」が有効研究協力者全体の 21.1%であった。

一番最近のアナルセックスにおけるコンドームの使用について,「使用した」が最も多く 52.3%,次いで「使用しなかった」「無回答」がそれぞれ 23.9%であった。

一番最近のアナルセックスの相手は,「特定の相手」が最も多く 44.0%,次いで「無回答」が 40.0%であった。三番目に「その場限りの相手」で 15.6%であった。

今度のセックスにおけるコンドーム使用について,特定の相手の場合,「毎回使いたい」と答えた者が 50.5%で最も多く,次いで「できる限り毎回使いたい」が 19.3%,三番目が「使いたくない」「考えていない」でそれぞれ 11.0%であった。その場限りの相手の場合,「毎回使いたい」が最も多く 67.0%,次いで「無回答」が 25.7%であった。

過去 6 ヶ月間にセックスにおいて使用したものは,複数回答で「水溶性ローション(潤滑剤・ゼリー)」と答えた者が最も多く有効研究協力者全体の 71.6%,次いで「コンドーム」と答えた者は 62.4%,三番目に「ない」と答えた者が有効研究協力者全体の 15.6%,四番目は違法薬物である「ラッシュ」が有効研究協力者全体の 14.7%であった。

過去 6 ヶ月間に出会いの手段として利用したものは,複数回答で「ゲイバーやレズビアンバー」と答えた者が最も多く 36.7%,次いで SNS の「ミクシィ」と答えた者が 26.6%,三番目に「携帯の出会い系サイトや掲示板」と答えた者が有効研究協力者全体の 24.8%,四番目が「パソコンの出会い系サイトや掲示板」で有効研究協力者全体の 22.9%であった。

過去 6 ヶ月間の屋内系ハッテン場利用の有無について、「ない」が最も多く 59.6%、次いで「ある」が 33.9%であった。「ある」と答えた者のうち、過去 6 ヶ月に行った回答は、1 回と 2 回が最も多く 18.9%、次いで 5 回と 6 回で 13.5%であった。

HIV に感染している知人の有無について、「いる」と答えた者が最も多く 31.2%、次いで「いないと思う」および「いない」と答えた者がそれぞれ 24.8%、四番目に「いると思う」が 13.8%であった。

当事者組織 ABCD について聞いたことがあるかについて、「ある」と答えた者が最も多く 49.5%、次いで「ない」と答えた者は 45.9%であった。

ABCD によるコンドームの認知について、「ある」と答えた者が最も多く 62.4%、次いで「ない」と答えた者が 33.0%であった。

ABCD の調査にこれまで答えたことの有無について、「ない」と答えた者が最も多く 86.2%、次いで「ある」と答えた者が 10.1%であった。

b. スポーツ大会 B(2010 年 7 月調査)について

(i) 研究協力者 112 名(回収率 100.0%)

(ii) 研究協力者の属性について

研究協力者 112 名のうち、20 歳代の者が 11.6%、30 歳代の者が 43.8%、40 歳代の者が 31.3%、50 歳代の者が 9.8%であった。無回答者 4 名を除いた平均年齢は 34.1 歳である。出身地は沖縄県以外の者が 61.6%で最も多く、沖縄県の者は 37.5%であった。沖縄県以外の者の出身地については、沖縄県以外と答えた者のうち関東地方が 37.7%で最も多かった。沖縄県外での 1 年以上の居住経験の有無については、「ある」と答えた者が 53.6%で最も多かった。現在の居住地域については、沖縄県以外に居住している者が最も多く 50.9%であった。沖縄県中部と沖縄県那覇市が 18.8%でともに二番目に多かった。沖縄県以外に居住している者のうち、関東地方が居住地である者が 60.3%で最も多かった。現在の居住形態は、「一人暮らし」と答えた者が 45.5%で最も多く、次いで「親戚または兄弟姉妹と同居」が 29.5%であった。最終学歴は在学中のものも含めて、「大学」が最も多く 52.7%、「高等学校」が次に多く 25.0%であった。

(iii) 結果について

HIV 抗体検査の有無について、「ある」と答えた者が 70.5%、「ない」と答えた者が 29.5%であった。「ある」と答えた者のうち回数は 1 回の者が 27.8%で最も多かった。HIV 抗体検査の有無を過去 1 年間に限定すると、「なし」と答えた者が 59.8%、「あり」と答えた者が 40.2%であった。「あり」と答えた者のうち、受検場所については複数回答で「県外の保健所・医療機関」が最も多く 24.1%、「中央保健所」が 8.9%で次に多かった。保健所の HIV 抗体検査の利用については、「どちらでもない・わからない」と答えた者が有効研究協力者全体の 39.3%で最も高く、「利用しやすい」と答えた者が有効研究協力者全体の 36.6%で次に多かった。「利用しにくい」と答えた者は有効研究協力者全体のうち 18.8%で三番目の多さであった。「利用しにくい」「どちらでもない・わからない」と答えた者のうち、その理由としては複数回答で「受けた事がないからわからない」が最も高く 31.1%であった。HIV 検査の場所を選ぶうえで重要な要素としては、複数回答で「行きやすい時間帯に検査が行われて

いる」が 57.1%で最も多く、次いで「検査の場所が利用しやすいところにある」が 53.6%、三番目に「インターネットで事前に調べることができる」が 32.1%であった。

性感染症の罹患経験については、「ない」と答えた者 85.7%で最も多く、「ある」と答えた者は 13.4%で二番目であった。罹患したことのある性感染症は有効研究協力者全体のうち複数回答で、「B型肝炎」が最も多く 7.2%(あると答えた者のうち 53.3%)、次いで「梅毒」が 5.4%(あると答えた者のうち 40.0%)、三番目が「淋病」と「クラミジア」と「ケジラミ」でそれぞれ 3.6%(あると答えた者のうち 26.7%)、六番目が「A型肝炎」と「HIV感染症」と「性器ヘルペス」でそれぞれ 1.8%(あると答えた者のうち 13.3%)であった。

HIV抗体検査の希望受検頻度では、「年に1回」と答えた者が最も多く 75.9%、次いで「年に2回」と答えた者が 15.2%であった。

セックスについては、「過去6ヶ月間における女性とのセックスの有無」について、「ない」と答えた者が 94.6%、次いで「ある」と答えた者が 4.5%であった。「過去6ヶ月間における男性とのセックスの有無」については、「ある」と答えた者が 85.5%、「ない」と答えた者が 12.9%であった。「過去6ヶ月間における男性とのセックスの回数」については1回と答えた者が最も多く「ある」と答えた者のうち 40.4%、次いで2回および3回と答えた者がそれぞれ 11.1%であった。

本研究において開発したコンドームに限らず、コンドーム一般の当事者の使用状況については、過去6ヶ月において特定の相手とタチでセックスする場合、「セックスしなかった」が有効研究協力者全体のうち 36.3%で最も高く、次いで「必ず使った」が有効研究協力者全体の 35.3%、「五分五分」及び「使わなかった」が有効研究協力者全体の 7.8%で三番目であった。過去6ヶ月において特定の相手とウケでセックスする場合、「セックスしなかった」が有効研究協力者全体のうち 41.5%で最も高く、次いで「必ず使った」が有効研究協力者全体の 26.6%、「使わなかった」が有効研究協力者全体の 9.6%で三番目、「五分五分」が有効研究協力者全体の 8.5%で四番目であった。過去6ヶ月において不特定の相手とタチでセックスする場合、「セックスしなかった」が有効研究協力者全体のうち 40.2%で最も高く、次いで「必ず使った」が有効研究協力者全体の 37.1%、「五分五分」が有効研究協力者全体の 6.2%で三番目であった。「使わなかった」が有効研究協力者全体の 5.2%で四番目、「使うことが多かった」が 3.1%で五番目であった。過去6ヶ月において不特定の相手とウケでセックスする場合、「セックスしなかった」が有効研究協力者全体のうち 51.6%で最も高く、次いで「必ず使った」が有効研究協力者全体の 28.6%であった。

一番最近のアナルセックスの相手は、「特定の相手」が最も多く 49.5%、次いで「無回答」が 29.0%であった。三番目に「その場限りの相手」で 21.5%であった。

今度のセックスにおけるコンドーム使用について、特定の相手の場合、「毎回使いたい」と答えた者が 46.4%で最も多く、次いで「できる限り毎回使いたい」が 28.6%、三番目が「使いたくない」で 13.4%であった。その場限りの相手の場合、「毎回使いたい」が最も多く 65.2%、次いで「できる限り毎回使いたい」が 8.9%、「無回答」が 22.3%であった。

過去6ヶ月間にセックスにおいて使用したものは、複数回答で「コンドーム」と答えた者が最も多く 69.4%、次いで「水溶性ローション(潤滑剤・ゼリー)」と答えた者が有効研究協力者全体の 64.8%で最も多く、三番目に「ない」と答えた者が有効研究協力者全体の 18.5%、四番目は違法薬物である「ラッシュ」が有効研究協力者全体の 11.1%であった。

過去6ヶ月間に出会いの手段として利用したものは、複数回答で「クラブ」と答えた者が最も多く50.0%、次いで「ミクシィ以外のSNS」と答えた者が46.2%、三番目に「ゲイバーやレズビアンバー」及び「携帯の出会い系サイトや掲示板」と答えた者がそれぞれ有効研究協力者全体の26.4%、五番目が「パソコンの出会い系サイトや掲示板」で有効研究協力者全体の17.9%、六番目がSNSの「ミクシィ」で有効研究協力者全体の17.0%、七番目が「ゲイショップ」で有効研究協力者全体の10.4%であった。

これまでのHIV感染の可能性については、「ほとんどない」と答える者が最も多く31.3%、次いで「十分に可能性がある」と答えた者が多く23.2%、三番目に「五分五分」と答えた者が22.3%であった。

性的指向に関する悩みを相談できる相手の有無については「いる」と答えた者が75.0%で最も多く、「いない」と答えた者は24.1%であった。「いる」と答えた者のうち、相談相手としては複数回答で「ゲイの友達」と答えた者が最も多く65.5%、次いで「恋人」と答えた者が21.8%であった。三番目は「異性愛の友だち」と答えた者が10.9%であった。

ゲイあることを打ち明けている相手は、複数回答で「いない」と答えた者が最も多く53.8%、次いで「異性愛の友だち」と答えた者が多く35.8%、三番目は「異性のきょうだい」と答えた者が11.3%であった。

HIVに感染している知人の有無について、「いる」と答えた者が最も多く34.8%、次いで「いないと思う」と答えた者が24.1%、三番目に「いない」と答えた者が23.2%、四番目に「いると思う」が16.1%であった。

当事者組織ABCDについて聞いたことがあるかについて、「ある」と答えた者が最も多く52.7%、次いで「ない」と答えた者は46.4%であった。

ABCDによるコンドームの認知について、「ある」と答えた者が最も多く53.6%、次いで「ない」と答えた者が45.5%であった。

聞いたことのあるコミュニティセンターについて、複数回答で「akta(東京都新宿区)」と答えた者が最も多く25.2%、次いで「mabui(沖縄県那覇市)」と答えた者が複数回答で有効研究協力者全体の24.3%、三番目に「haco(福岡県福岡市)」と答えた者が複数回答で有効研究協力者全体の15.3%であった。

ABCDの調査にこれまで答えたことの有無について、「ない」と答えた者が最も多く61.6%、次いで「ある」と答えた者が36.6%であった。

c.スポーツ大会C(2010年9月調査)について

(i)研究協力者 124名(回収率100.0%)

(ii)研究協力者の属性

研究協力者124名のうち、20歳代の者が41.1%、30歳代の者が40.3%であった。無回答者10名を除いた平均年齢は22.5歳である。出身地は沖縄県以外の者が58.1%で最も多く、沖縄県の者は41.9%であった。沖縄県以外の者の出身地については、沖縄県以外と答えた者のうち関東地方が40.3%で最も多かった。沖縄県外での1年以上の居住経験の有無については、「ある」と答えた者が54.0%で最も多かった。現在の居住地域については、沖縄県以外に居住している者が最も多く53.2%であった。沖縄県中部が18.5%で二番目に多く、沖縄県那覇市が15.3%で三番目に多かった。沖縄県以外に居住している者のうち、関東地方が居住地

ある者が 56.0%で最も多かった。現在の居住形態は、「一人暮らし」と答えた者が 45.2%で最も多く、次いで「親戚または兄弟姉妹と同居」が 28.2%であった。最終学歴は在学中のものも含めて、「大学」が最も多く 45.2%、「高等学校」が次に多く 28.2%であった。

(iii)結果について

HIV 抗体検査の有無について、「ある」と答えた者が 60.6%、「ない」と答えた者が 39.5%であった。「ある」と答えた者のうち回数は 1 回の者が 42.7%で最も多かった。HIV 抗体検査の有無を過去 1 年間に限定すると、「なし」と答えた者が 51.6%、「あり」と答えた者が 42.7%であった。「あり」と答えた者のうち、受検場所については複数回答で「県外の保健所・医療機関」が最も多く 45.5%、「中央保健所」が 25.5%で次に多かった。保健所の HIV 抗体検査の利用については、「どちらでもない・わからない」と答えた者が有効研究協力者全体の 42.7%で最も高く、「利用しやすい」と答えた者が有効研究協力者全体の 40.3%で次に多かった。「利用しにくい」と答えた者は有効研究協力者全体のうち 15.3%で三番目の多さであった。「利用しにくい」「どちらでもない・わからない」と答えた者のうち、その理由としては複数回答で「受けた事がないからわからない」が最も高く 29.8%であった。HIV 検査の場所を選ぶうえで重要な要素としては、複数回答で「行きやすい時間帯に検査が行われている」が 60.5%で最も多く、次いで「検査の場所が利用しやすいところにある」が 54.0%、三番目に「同性愛者(ゲイやレズビアン)が多く受検している」が 30.6%であった。

性感染症の罹患経験については、「ない」と答えた者が 75.8%で最も多く、「ある」と答えた者は 18.5%で二番目であった。罹患したことのある性感染症は有効研究協力者全体のうち複数回答で、「ケジラミ」が最も多く 8.9%(あると答えた者のうち 47.8%)、次いで「梅毒」が 5.6%(あると答えた者のうち 30.4%)、三番目が「淋病」と「クラミジア」で 3.2%(あると答えた者のうち 17.4%)、五番目が「B 型肝炎」で 2.4%(あると答えた者のうち 13.0%)、六番目が「HIV 感染症」で 1.6%(あると答えた者のうち、8.7%)であった。

HIV 抗体検査の希望受検頻度では、「年に 1 回」と答えた者が最も多く 66.1%、次いで「年に 2 回」と答えた者が 18.5%であった。

セックスについては、「過去 6 ヶ月間における女性とのセックスの有無」について、「ない」と答えた者が 90.3%、次いで「ある」と答えた者が 8.9%であった。「過去 6 ヶ月間における男性とのセックスの有無」については、「ある」と答えた者が 85.5%、「ない」と答えた者が 12.9%であった。「過去 6 ヶ月間における男性とのセックスの回数」については 1 回と答えた者が最も多く有効研究協力者全体のうち 26.6%、次いで 2 回と答えた者が 12.1%であった。

本研究において開発したコンドームに限らず、コンドーム一般の当事者の使用状況については、過去 6 ヶ月において特定の相手とタチでセックスする場合、「セックスしなかった」が有効研究協力者全体のうち 30.6%で最も高く、次いで「必ず使った」が有効研究協力者全体の 29.8%、「五分五分」が有効研究協力者全体の 6.5%で三番目、「使わなかった」が有効研究協力者全体の 5.6%で四番目であった。過去 6 ヶ月において特定の相手とウケでセックスする場合、「セックスしなかった」が有効研究協力者全体のうち 39.5%で最も高く、次いで「必ず使った」が有効研究協力者全体の 21.8%、「使わなかった」が有効研究協力者全体の 4.8%で三番目、「五分五分」が有効研究協力者全体の 3.2%で四番目であった。過去 6 ヶ月

において不特定の相手とタチでセックスする場合、「セックスしなかった」が有効研究協力者全体のうち 33.9%で最も高く、次いで「必ず使った」が有効研究協力者全体の 26.6%、「五分五分」が有効研究協力者全体の 5.6%で三番目であった。「使うことが多かった」が 4.8%で四番目、「使わなかった」が有効研究協力者全体の 1.6%で五番目であった。過去 6 ヶ月において不特定の相手とウケでセックスする場合、「セックスしなかった」が有効研究協力者全体のうち 40.3%で最も高く、次いで「必ず使った」が有効研究協力者全体の 20.2%であった。

一番最近のアナルセックスの相手は、「特定の相手」が最も多く 48.6%、次いで「その場限りの人」が 31.4%、「無回答」が 20.0%であった。「その場限りの相手」と答えた者のうち、その者と出会った場所は「屋内系ハッテン場」が最も高く 36.4%、次いで「パソコンの出会い系サイトや掲示板」が 18.2%、「携帯の出会い系サイトや掲示板」が 15.2%で三番目であった。

今度のセックスにおけるコンドーム使用について、特定の相手の場合、「毎回使いたい」と答えた者が 61.3%で最も多く、次いで「できる限り毎回使いたい」が 16.9%であった。その場限りの相手の場合、「毎回使いたい」が最も多く 66.9%、次いで「できる限り使いたい」が 7.3%、「無回答」が 20.2%であった。

過去 6 ヶ月間にセックスにおいて使用したものは、複数回答で「コンドーム」および「水溶性ローション(潤滑剤・ゼリー)」と答えた者がそれぞれ有効研究協力者全体の 63.7%で最も多く、三番目に「ない」と答えた者が有効研究協力者全体の 19.4%、四番目は違法薬物である「ラッシュ」が有効研究協力者全体の 13.7%であった。

過去 6 ヶ月間に出会いの手段として利用したものは、複数回答で「ゲイバーやレズビアンバー」が最も多く有効研究協力者全体の 41.9%、次いで「携帯の出会い系サイトや掲示板」が有効研究協力者全体の 41.1%、三番目が SNS の「ミクシィ」で有効研究協力者全体の 37.1%、四番目が「パソコンの出会い系サイトや掲示板」で有効研究協力者全体の 32.3%、五番目が「ミクシィ以外の SNS」で有効研究協力者全体の 30.6%であった。

過去 6 ヶ月間の屋内系ハッテン場の利用の有無については、「ない」と答えた者が最も多く 64.5%、「ある」と答えた者が 30.6%であった。「ある」と答えた者のうちの利用回数については、「10 回」と答えた者が最も多く 18.4%、次いで「3 回」と答えた者が 15.8%、三番目が「1 回」と答えた者が 13.2%であった。

これまでの HIV 感染の可能性については、「ほとんどない」と答える者が最も多く 34.7%、次いで「わからない」が 23.4%、三番目に「十分に可能性がある」と答えた者が 20.2%であった。

性的指向に関する悩みを相談できる相手の有無については「いる」と答えた者が 83.9%で最も多く、「いない」と答えた者は 16.1%であった。「いる」と答えた者のうち、相談相手としては複数回答で「ゲイの友達」が最も多く 75.8%、次いで「異性愛の友達」が 25.0%であった。

ゲイあることを打ち明けている相手は、複数回答で「異性愛の友だち」と答えた者が最も多く 50.8%、次いで「いない」と答えた者が 30.6%であった。

HIV に感染している知人の有無について、「いる」と答えた者が最も多く 37.1%、次いで「いない」と答えた者が 26.6%、三番目に「いないと思う」と答えた者が 20.2%、四番目に

「いると思う」が 16.1%であった。

当事者組織 ABCD について聞いたことがあるかについて、「ない」と答えた者が最も多く 54.0%,次いで「ある」と答えた者は 46.0%であった。

ABCD によるコンドームの認知について、「ある」と答えた者が最も多く 50.8%,次いで「ない」と答えた者が 49.2%であった。

聞いたことのあるコミュニティセンターについて、「どれも聞いたことがない」と答えた者が複数回答で最も多く 33.1%,次いで「mabui(沖縄県那覇市)」と答えた者が複数回答で有効研究協力者全体の 29.8%,三番目に「akta(東京都新宿区)」と答えた者が複数回答で有効研究協力者全体の 19.4%であった。

D. 考察

研究協力者はいずれも沖縄県外の者が多く含まれており,とくに東京都居住者を中心とした関東地方に居住しているという特徴がある。これは沖縄県が観光立県であることによるものであると考えられる。性感染症の罹患経験では「梅毒」がいずれにおいても高い数値となっており,HIV 感染予防対策とあわせた予防対策が重要である。また,HIV 感染症に関しても,人口 10 万人あたりの感染報告数との比較ではいずれも高い数値であるといえよう。同時に研究協力者層は感染リスクの高い層であることが指摘できる。

本研究で開発したコンドームについては,研究協力者に沖縄県以外の居住者が多く含まれていることを考えると,全体の約半数の者が認知しており,感染リスクの高い層に対してコンドーム配布アウトリーチによるゲイバー等への介入は一定の認知へと結びついていることが指摘できる。

3) 今後の課題

本稿では,さらなる課題を指摘しておきたい。本調査の結果分析をより詳細に行い,沖縄県の特徴をより明確に描き出すことが必要であろう。また,認知率と具体的な行動変容の結びつきに関する検討を行う必要がある。HIV の感染予防に関しては最終的には当事者のセーフセックスに関する行動変容が必要となる。現状の分析においては認知率までの分析に留まっており,さらに詳細な分析が求められる。

4) 沖縄県における男性同性愛者への HIV 感染予防に関する仮説の提示と結果

本調査の結果および,これまでの調査研究をもとに本研究では沖縄県における男性同性愛者の HIV 感染増加の背景として,次のような仮説を提示するものである。

沖縄県のゲイコミュニティは,多くが本土とくに東京都を中心とした関東地方の男性同性愛者によって形成されている。また,沖縄県の男性同性愛者と本土,とくに関東地方の男性同性愛者とのセックスの結びつきがあることが予測される。

また,その背景には沖縄県の男性同性愛者の生活課題の存在もあると考えられる。

介入前と介入後の変化についてはどうか,介入前の沖縄県においては,HIV 感染予防の資材入手は身近にあったわけではない。しかし,当事者組織によるコンドーム配布アウトリーチの介入によって,開発したコンドームの認知率は約半数程度であることが確認された。これまで HIV/AIDS に関する取り組みがゲイコミュニティに対してほぼ存在はない状況に

において、当事者組織の介入による変化はあったといえよう。

スポーツ大会 A
2009 年 10 月調査結果

表1 年齢

10代	0	0.0%
20代	10	9.2%
30代	41	37.6%
40代	34	31.2%
50代	6	5.5%
60代	2	1.8%
それ以上	2	1.8%
無回答	14	12.8%
計	109	100.0%

表2 出身地

沖縄県	54	49.5%
他都道府県	54	49.5%
無回答	1	0.9%
計	109	100.0%

表3 他都道府県の詳細(都道府県別)

北海道	6
東京都	15
神奈川県	4
千葉県	1
静岡県	2
愛知県	1
大阪府	4
福岡県	2
熊本県	1
長崎県	2
鹿児島県	2
無回答	14
計	54

表3 他都道府県の詳細(地方別)

北海道地方	6	近畿地方	4
北海道	6	大阪府	4
東北地方	0		
		中国地方	0
関東地方	20		
東京都	15		
千葉県	1	四国地方	0
神奈川県	4		
		九州地方	9
		福岡県	2
中部地方	3	長崎県	2
静岡県	2	熊本県	1
愛知県	1	鹿児島県	4

表4 沖縄県外での1年以上の居住経験の有無

ある	81	74.3%
ない	25	22.9%
無回答	3	2.8%
計	109	100.0%

表5 現在の居住地域

那覇市	31	28.4%
南部(那覇市以外)	11	10.1%
中部	27	24.8%
北部	3	2.8%
離島	0	0.0%
その他	35	32.1%
無回答	2	1.8%
総計	109	100.0%

表6 表5「その他」の詳細(都道府県別)

千葉県	1
東京都	18
神奈川県	1
埼玉県	1
福岡県	2
北海道	5
その他	2
無回答	3
計	33

表6 表5「その他」の詳細(地方別)

北海道地方	5	近畿地方	0
北海道	5		
東北地方	0	中国地方	0
関東地方	21	四国地方	0
千葉県	1		
東京都	18	九州地方	2
神奈川県	1	福岡県	2
埼玉県	1		
中部地方	0	その他	2
		無回答	3

表7 現在の居住形態

一人暮らし	52	47.7%
宿舎、寮	0	0.0%
親戚または兄弟姉妹と同居	30	27.5%
友達と同居	3	2.8%
恋人と同居	20	18.3%
その他	4	3.7%
計	109	100.0%

表8 最終学歴

中学校	0	0.0%
高等学校	16	14.7%
専門学校・短大(高専を含む)	27	24.8%
大学	62	56.9%
大学院	3	2.8%
その他	1	0.9%
計	109	100.0%

表11 過去1年間のHIV検査受検の有無

なし	39	35.8%
あり	70	64.2%
無回答	0	0.0%
計	109	100.0%

表13 保健所のHIV検査の利用しやすさ

利用しやすい	31	28.4%
利用しにくい	12	11.0%
どちらでもない・分からない	64	58.7%
無回答	2	1.8%
計	109	100.0%

表14 表13「2」「3」を選んだ理由(MA)

受けた事がないからわからない	46	42.2%
検査日が限られている	10	9.2%
検査時間が限られている	8	7.3%
どんな対応をされるか不安	9	8.3%
場所が不便である	6	5.5%
結果通知までが長い	2	1.8%
ゲイフレンドリーではないから	2	1.8%
陽性だったときにどのようなサポートがあるか分からないから	5	4.6%
その他	3	2.8%

91 母数:109

表15 HIV検査の場所を選ぶうえで重要なこと(MA)

同性愛者(ゲイやレズビアン)が多く受検している	40	36.7%
友人やバー等で評判をクチコミで聞いている	20	18.3%
ゲイやレズビアン向け雑誌やネットで宣伝されている	10	9.2%
新聞やポスター、広報にて宣伝されている	12	11.0%
インターネットで事前に調べることができる	25	22.9%
知り合いが検査場所で働いていない	24	22.0%
行きやすい時間帯に検査が行われている	57	52.3%
検査の場所が利用しやすいところにある	46	42.2%

234 母数:109

表16 性感染症罹患経験の有無

ある	24	22.0%
ない	83	76.1%
無回答	2	1.8%
計	109	100.0%

表17 罹患したことの性感性症の種類(MA)

梅毒	6	5.5%
A型肝炎	1	0.9%
淋病	5	4.6%
アメーバ赤痢	0	0.0%
B型肝炎	1	0.9%
クラミジア	2	1.8%
HIV感染症	2	1.8%
ケジラミ	12	11.0%
性器ヘルペス	1	0.9%
その他	1	0.9%

31 母数:109

表18 HIV検査希望受検頻度

年に1回	81	74.3%
年に2回	19	17.4%
年に3回以上	3	2.8%
無回答	6	5.5%
計	109	100.0%

表19 過去6カ月間における女性とのセックスの有無

ある	4	3.7%
ない	105	96.3%
無回答	0	0.0%
計	109	100.0%

表20 過去6カ月間における男性とのセックスの有無

ある	101	92.7%
ない	8	7.3%
無回答	0	0.0%
計	109	100.0%

表21 過去6カ月間における男性とのセックスの回数

1	42	41.6%
2	13	12.9%
3	9	8.9%
4	4	4.0%
5	8	7.9%
6	3	3.0%
7	1	1.0%
8	0	0.0%
10	6	5.9%
15	1	1.0%
無回答	14	13.9%
計	101	100.0%

母数:101

表21 特定の相手とのアナルセックスにおけるコンドームの使用状況(タチ)

セックスしなかった	32	29.4%
必ず使った	35	32.1%
使うことが多かった	4	3.7%
5分5分	8	7.3%
使わないことが多かった	5	4.6%
使わなかった	12	11.0%
不明	0	0.0%
無回答	13	11.9%
計	109	100.0%

表22 特定の相手とのアナルセックスにおけるコンドームの使用状況(ウケ)

セックスしなかった	50	45.9%
必ず使った	26	23.9%
使うことが多かった	3	2.8%
5分5分	4	3.7%
使わないことが多かった	4	3.7%
使わなかった	9	8.3%
不明	0	0.0%
無回答	13	11.9%
計	109	100.0%

表23 不特定の相手とのアナルセックスにおけるコンドームの使用状況(タチ)

セックスしなかった	49	45.0%
必ず使った	32	29.4%
使うことが多かった	7	6.4%
5分5分	4	3.7%
使わないことが多かった	0	0.0%
使わなかった	3	2.8%
不明	0	0.0%
無回答	14	12.8%
計	109	100.0%

表24 不特定の相手とのアナルセックスにおけるコンドームの使用状況(ウケ)

セックスしなかった	62	56.9%
必ず使った	23	21.1%
使うことが多かった	3	2.8%
5分5分	2	1.8%
使わないことが多かった	2	1.8%
使わなかった	1	0.9%
不明	0	0.0%
無回答	16	14.7%
計	109	100.0%

表25 一番最近のアナルセックスでのコンドーム使用

使用した	57	52.3%
使用しなかった	26	23.9%
無回答	26	23.9%
計	109	100.0%

表26 一番最近のアナルセックスの相手

その場限りの人	17	15.6%
特定の相手	48	44.0%
無回答	44	40.4%
計	109	100.0%

表27 相手と出会った場所

サウナ系ハッテン場	12	25.0%
マンション系ハッテン場	4	8.3%
ビデオBOX系ハッテン場	2	4.2%
パソコンの出会い系サイトや掲示板	2	4.2%
携帯の出会い系サイトや掲示板	7	14.6%
その他のハッテン場(公園などの公共施設/ビーチなど)	1	2.1%
ミクシィ	2	4.2%
ミクシィ以外のSNS	2	4.2%
ゲイバーやレズビアンバー	7	14.6%
クラブ	0	0.0%
その他	3	6.3%
無回答	6	12.5%
不明	0	0.0%
計	48	100.0%

表28 今度のアナルセックス時のコンドーム使用(特定の相手)

毎回使いたい	55	50.5%
できる限り毎回使いたい	21	19.3%
使いたくない	9	8.3%
考えていない	12	11.0%
無回答	12	11.0%
計	109	100.0%

表29 今度のアナルセックス時のコンドーム使用(その場限りの相手)

毎回使いたい	73	67.0%
できる限り毎回使いたい	5	4.6%
使いたくない	0	0.0%
考えていない	3	2.8%
無回答	28	25.7%
計	109	100.0%

表30 過去6か月に使用したもの(MA)

コンドーム	68	62.4%
水溶性ローション(潤滑剤・ゼリー)	78	71.6%
ラッシュ	16	14.7%
5MEO-DIPT(ゴメオ・フォクシー)	0	0.0%
その他の合法(脱法)ドラッグ	0	0.0%
ない	17	15.6%
計	179	母数:109

表31 過去6か月間に出会いの手段として利用したもの(MA)

パソコンの出会い系サイトや掲示板	25	22.9%
携帯の出会い系サイトや掲示板	27	24.8%
ハッテン公園、ハッテン海岸	9	8.3%
ハッテントイレ	0	0.0%
ハッテン浴場	18	16.5%
ミクシィ	29	26.6%
ミクシィ以外のSNS	20	18.3%
ゲイバーやレズビアンバー	40	36.7%
クラブ	3	2.8%
ゲイショップ	9	8.3%
その他	0	0.0%
利用したものはない	25	22.9%
計	180	母数:109

表32 過去6か月間の屋内系ハッテン場利用の有無

ある	37	33.9%
ない	65	59.6%
無回答	7	6.4%
不明	0	0.0%
計	109	100.0%

表33 過去6か月間に屋内系ハッテン場に行った回数

1	7	18.9%
2	7	18.9%
3	4	10.8%
4	0	0.0%
5	5	13.5%
6	5	13.5%
7	0	0.0%
8	2	5.4%
9	0	0.0%
10	4	10.8%
20	1	2.7%
無回答	1	2.7%
不明	1	2.7%
計	37	100.0%

表38 HIVに感染している知人の有無

いる	34	31.2%
いると思う	15	13.8%
いないと思う	27	24.8%
いない	27	24.8%
無回答	6	6%
計	109	100.0%

表39 「」という団体を聞いたことがあるか

ある	54	49.5%
ない	50	45.9%
無回答	5	4.6%
計	109	100.0%

表40 「」のコンドームを見たことがあるか

ある	68	62.4%
ない	36	33.0%
無回答	5	4.6%
計	109	100.0%

表40-1 「」のコミュニティペーパーをみたことがあるか

ある	41	38%
ない	63	58%
無回答	5	5%
計	109	

表42 これまでにの調査に答えたことがあるか

ある	11	10.1%
ない	94	86.2%
無回答	4	3.7%
計	109	100.0%

スポーツ大会 B
2010 年 7 月調査結果

表1 年齢

10代	0	0.0%
20代	13	11.6%
30代	49	43.8%
40代	35	31.3%
50代	11	9.8%
60代	0	0.0%
それ以上	0	0.0%
無回答	4	3.6%
計	112	100.0%

表2 出身地

沖縄県	42	37.5%
他都道府県	69	61.6%
無回答	1	0.9%
計	112	100.0%

表3 他都道府県の詳細(都道府県別)

アメリカ	1
愛知県	3
愛媛県	1
茨城県	1
京都府	1
熊本県	3
高知県	1
佐賀県	3
埼玉県	3
三重県	1
山形県	1
山口県	3
滋賀県	1
鹿児島県	1
神奈川県	4
青森県	1
静岡県	1
千葉県	3
大阪府	5
大分県	1
長崎県	2
長野県	1
東京都	15
福岡県	8
兵庫県	1
北海道	1
無回答	2
合計	69

表3 他都道府県の詳細(地方別)

北海道地方	1	近畿地方	8	海外	1
北海道	1	京都府	1	アメリカ	1
		兵庫県	1		
東北地方	2	三重県	1		
山形県	1	大阪府	5		
青森県	1				
		中国地方	3		
関東地方	26	山口県	3		
茨城県	1				
埼玉県	3	四国地方	2		
千葉県	3	愛媛県	1		
東京都	15	高知県	1		
神奈川県	4				
		九州地方	18		
中部地方	6	福岡県	8		
長野県	1	佐賀県	3		
愛知県	3	長崎県	2		
滋賀県	1	大分県	1		
静岡県	1	熊本県	3		
		鹿児島県	1		

表4 沖縄県外での1年以上の居住経験の有無

ある	60	53.6%
ない	45	40.2%
無回答	7	6.3%
計	112	100.0%

表5 現在の居住地域

那覇市	21	18.8%
南部(那覇市以外)	4	3.6%
中部	21	18.8%
北部	2	1.8%
離島	1	0.9%
その他	57	50.9%
無回答	6	5.4%
総計	112	100.0%

表6 表5「その他」の詳細(都道府県)

愛知県	2
愛媛県	2
熊本県	2
埼玉県	2
滋賀県	1
神奈川県	3
千葉県	4
大阪府	2
長崎県	1
長野県	1
東京都	26
福岡県	10
無回答	2
計	58

表6 表5「その他」の詳細(地方別)

北海道地方	0	近畿地方	3
		大阪府	2
東北地方	0	滋賀県	1
		中国地方	0
関東地方	35	四国地方	2
千葉県	4	愛媛県	2
東京都	26	九州地方	13
神奈川県	3	福岡県	10
埼玉県	2	熊本県	2
中部地方	3	長崎県	1
愛知県	2		
長野県	1		

表7 現在の居住形態

一人暮らし	51	45.5%
宿舎、寮	1	0.9%
親戚または兄弟姉妹と同居	33	29.5%
友達と同居	5	4.5%
恋人と同居	19	17.0%
その他	3	2.7%
計	112	100.0%

表8 最終学歴

中学校	2	1.8%
高等学校	28	25.0%
専門学校・短大(高専を含む)	17	15.2%
大学	59	52.7%
大学院	6	5.4%
その他	0	0.0%
計	112	100.0%

表9 HIV検査受検の有無

ない	33	29.5%
ある	79	70.5%
計	112	100.0%

表11 過去1年間のHIV検査受検の有無

なし	67	59.8%
あり	45	40.2%
無回答	0	0.0%
計	112	100.0%

表10 回数

1	22	27.8%
2	19	24.1%
3	8	10.1%
4	6	7.6%
5	9	11.4%
6～10	6	7.6%
10～	1	1.3%
不明・無回答	8	10.1%
計	79	100.0%

表12 過去1年間にHIV検査を受けた人が受検をした場所(MA)

沖縄県内の病院や医院	4	3.6%
中央保健所	10	8.9%
南部保健所	4	3.6%
中部保健所	0	0.0%
北部保健所	0	0.0%
宮古保健所	0	0.0%
八重山保健所	0	0.0%
県外の保健所・医療機関	27	24.1%
自宅検査・郵送検査	3	2.7%
その他	5	4.5%

母数比:112

その他の内訳

東京	2
人間ドック	1
新宿	1
病院	1

表13 保健所のHIV検査の利用しやすさ

利用しやすい	41	36.6%
利用しにくい	21	18.8%
どちらでもない・分からない	44	39.3%
無回答	6	5.4%
計	112	100.0%

表14 表13「2」「3」を選んだ理由(MA)

(母数比:106)

受けた事がないからわからない	33	31.1%
検査日が限られている	17	16.0%
検査時間が限られている	13	12.3%
どんな対応をされるか不安	11	10.4%
場所が不便である	0	0.0%
結果通知までが長い	8	7.5%
ゲイフレンドリーではないから	1	0.9%
陽性だったときにどのようなサポートがあるか分からないから	6	5.7%
その他	3	2.8%

92

その他の内訳

1:職員によるリークがうわさになってたから(沖縄事情はしらない)	1
1:医療機関に知り合いが多いから	1
1:病院を利用	1